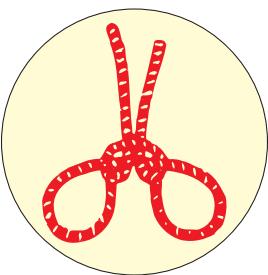


会報
むすび特別号

平成26年
3月吉日

五十周年記念誌

栃木県青年神職むすび会



敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、

崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、

人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかけて向ふところを明かにし、

実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、
明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、
神のみこもろとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、
国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

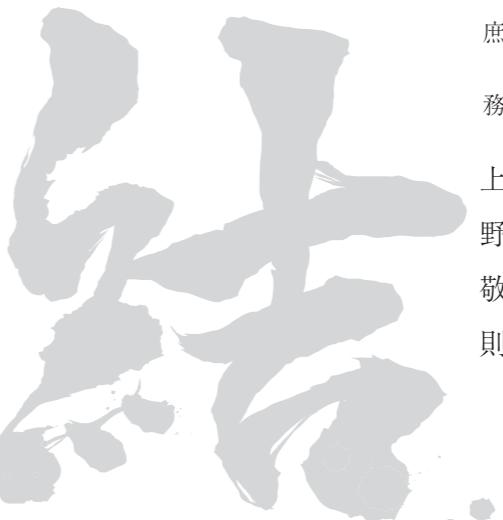


■ 創立五十周年実行委員会

■ 栃木県青年神職むすび会 役職員(平成二十五年・二十六年度)

■ 編集後記

| | | | |
|------|-----------|------|-----------|
| 委員長 | 滝 口 貴 史 | 会計 | 滝 口 貴 史 |
| 副委員長 | 大阿久 岩貴 | 副会長 | 福 田 財 大 |
| 副委員長 | 櫻 木 琢 也 | 副会長 | 柳 田 耕 史 |
| 副委員長 | 柳 田 耕 史 | 総務局員 | 柳 田 耕 史 |
| 副委員長 | 横瀬 勝 宣 | 総務局員 | 横瀬 勝 宣 |
| 副委員長 | 田 邊 雅 祥 | 総務局員 | 田 邊 雅 祥 |
| 副委員長 | 寺 内 誉 迪 | 総務局員 | 寺 内 誉 迪 |
| 副委員長 | 上 野 敬 則 | 議長 | 金 子 宗 人 |
| 副委員長 | 黒 本 裕 子 | 監事 | 稻 葉 成 孝 |
| 副委員長 | 阿 久 津 喜 大 | 監事 | 阿 久 津 喜 大 |
| 副委員長 | 岩 松 史 恵 | 監事 | 岩 松 史 恵 |
| 副委員長 | 根 本 直 樹 | 監事 | 根 本 直 樹 |
| 副委員長 | 秋 元 亮 平 | 監事 | 秋 元 亮 平 |
| 副委員長 | 多 田 隆 一 | 監事 | 多 田 隆 一 |
| 副委員長 | 葭 田 真 彦 | 監事 | 葭 田 真 彦 |
| 副委員長 | 新 井 隆 宏 | 監事 | 新 井 隆 宏 |



栃木県青年神職むすび会五十周年記念誌
発刊にあたり、むすび会会員はもとより諸先輩方、県内神職の皆様にご協力賜りました事を、心より御礼申し上げます。

当初の予定より大幅に遅れましたが、当会の一つの区切りとなる栃木県青年神職むすび会五十周年記念誌を無事に上梓と相成り、第十九代荒井和宏会長より立ち上げた五十周年準備委員会から始まり、第二十代田中教文会長・第二十一代滝口貴史会長と三代に渡る集大成として発刊の運びとなりました。

創立五十周年実行委員会に於ける最後の事業となりましたが、HP記念誌担当として、記念誌発刊に携わる機会に恵まれた事に感謝申し上げ、結びとさせて頂きます。

平成二十六年三月吉日

HP記念誌担当
三祖神社 宮司 阿久津 喜大

会報むすび特別号 栃木県青年神職むすび会 五十周年記念誌

発行日 平成26年3月28日
発行所 栃木県青年神職むすび会
五十周年記念誌
田中教文
発行人
製作 株式会社下野広告社
印刷所 株式会社井上総合印刷

栃木県青年神職むすび会 発会趣旨

現今の世状を鑑るに、青年神職の活動は余にも停滞的にして、斯道發展の為に重大なる影響を及ぼさんとするは吾等の是とする処に非ず。然るに、将来に於ける斯道の為の昂揚を憂い、吾等青年神職が此處に立ち上がり全國的組織の結成を成さんとするは早きに非ずして当然の責務なり。

然処、昨今同志賛同のもとに県青年神職並にその他賛同者の地方組織を築き時局の懇談研修を重ねつつ全国組織結成への第一歩を踏み出さんとするは誠に意義あるものにして将来に光明を投げるものと信ず。依て、かかる趣旨に賛同賜り当会發足の為に絶大なる御高配をおあぐものなり。

昭和三十七年三月四日



目次

| | |
|---------------------------|----|
| ご挨拶 栃木県青年神職むすび会 会長 田中 教文 | 04 |
| 創立五十周年を迎えて 実行委員長 滝口 貴史 | 05 |
| ご挨拶 栃木県神社庁長 古峯神社 宮司 石原 敬士 | 06 |
| ご挨拶 神道青年全国協議会 会長 大野 清徳 | 07 |
| ご挨拶 栃木県神社総代連合会 会長 島田 嘉内 | 07 |
| 五十年間の歩み | 08 |
| 神主が自転車で行く伊勢参り | 24 |
| 夏休みこども神社体験事業 | 28 |
| 創立五十周年記念事業雅楽コンサート | 30 |
| 沖縄本土復帰四十年・沖縄県栃木の塔慰靈祭 | 36 |
| 創立五十周年記念大会 | 40 |
| 写真コンテスト（投票・授与式） | 46 |
| 歴代会長・副会長名簿 | 50 |
| 栃木県青年神職むすび会会員名簿および協力業者 | 51 |
| 神社・神職協賛者名簿 | 52 |
| 『特別活動報告』 | 55 |
| 東日本大震災復興支援事業 | 55 |
| 編集後記 | 64 |

夏休みこども神社体験事業

神職の子弟を中心に、
雅楽・禊・祭典・記念植樹等を
体験させ教化育成を図った。



れでみました。上手に音を出せない子もおりましたが、この時が皆一番楽しそうでした。

紙芝居は、男体山の神と赤城山の神との戦いを題材とした神話を上演しました。むすび会員が身振り手振りをまじえながら読

み聞かせる神話に子どもたちは始終興味津々でした。

午後になり生憎の空模様となりましたが、屋内にて西瓜割を行いました。参加者は目一杯西瓜を叩き、棒の方が折れるという珍事が発生するハプニングが起きましたが、それによって次第に参加者の親睦が深まつていきました。

バーベキューは屋内にて行い、子どもたちに食の大切さを理解してもらおうと食前感謝をしてから食事を始め山の幸、海の幸等を皆で美味しく頂きました。

この後は子どもたちが楽しみにしていた花火を行いました。年上の子どもが年下の面倒を見るなど、子ども同士の協力もあります花火を楽しむ事ができました。就寝時間になると、普段は子どもたちを先に寝かしつけるお父さん方も、この日は大分疲れたと見えて、子どもたちと一緒に寝てしまう方がほとんどでした。大部屋にそれぞれの親子が揃って寝ている姿は、なんとも言えない心温まる風景でした。

「栃木県青年神職むすび会創立五十周年記念事業こども神社体験プログラム」を平成二十三年八月八日～九日の二日間にわたり、鹿沼市に鎮座いたします古峯神社に於いて開催いたしました。この度の事業は、次世代を担う子どもたちが、心と体で神社を体感し、より神社を身近に感じてもらう事を目的としております。

二日間という短い日程ではありましたが、「記念植樹」「雅楽の鑑賞会」「神話の紙芝居上演」「禊」などを行いました。

当日古峯神社に集合した参加者は開講式・正式参拝の後、イチイの木の記念植樹式に参列しました。会員の指導のもと、子どもたちは作法を教わりながら参拝しました。修了式後はさわやかな青空のもと古峯ヶ原高原をハイキングしました。二日間寝食を共にした子どもたちは、プログラム最後のハイキングを大いに楽しんでいました。

一泊二日を神社で過ごし、様々な体験をし、神社をより身近に感じてくれたのではないかなと思います。又、父親として、神職としてこのプログラムに携わった会員にとってこの様々な出来事を思い出していくたのも貴重な体験になつたと思います。されば幸いです。

また、このような企画は次世代を担う子どもたちのためにも、継続していかなければならぬと思います。



雅楽体験



西瓜割り



早朝の禊体験



夏休みこども神社体験プログラムに参加いただいた方々

◆開催日：平成二十三年八月八日・九日

◆場所：古峯神社